

1. 文化文政時代にかるた遊びをしていた人違ってどんな人

最小限 字(漢字)が読める人

2. 字(漢字)が読める人とは

- ① 上級武士。
- ② 大店の主と番頭

3. かるた遊びをするために必要な人数は

明治時代の新聞によると5人1チームとなっている。

会津若松城殿中で遊んでいた方法が、そのまま伝わってきたと考えられる。

かるた遊びをするには、最低11人が必要となる。

4. 11人集めるには

- ① 一般の家庭で、字が読める人をこれだけ集めるのは無理である。
- ② それでは商店主ならばどうか。可能性はあるが、これも無理と思われる。
- ③ 殿中であれば上級武士を簡単に集めることが出来る。

5. 何故殿中で遊ばれたのかな

11人以上の武士が、殿中以外で、夜毎集まり大声を出していると次のような差し障りが、あったのではないだろうか。

- ① 徒党を組み何か企んでいるのでは。
- ② 結社を組んでいる。等、あらぬ疑いを掛けられる恐れがあり、殿中で遊ぶ分には何等心配がなく、かつ人数も容易に集めることが出来、心おきなく遊べたのでは。

6. どうして板かるたになったのかな

- ① 和紙が高価であった。
- ② 漆器、下駄等の端材の活用で無駄を無くすことが出来る。
- ③ 紙かるたは、風に弱く、日中障子や襖を開けて明かりを取りながらすることが難しい。また、夜ろうそくの灯火の下でするには字が読みにくかった事と思われる。
- ④ 板かるたであれば、風の影響を受けずに遊ぶことが出来る。
- ⑤ さらに、頭字を大書することで、明かりに対処出来たのでは。
- ⑥ 藩の財政面、遊び易さから必然的に「板かるた」になったのでは。

北海道に下の句歌留多が伝わったのはいつ

(会津若松が発祥の地であると仮定して)

1. なぜ会津若松を発祥の地と仮定するのか

島根県出身の俳人天野宗軒さんの話をもとに平成19年4月松江市を訪問。酒田かるた協会菅会長が前会長の小松氏から下の句歌留多で遊んでいた事を聴いていたとの話、酒田市を訪れた折、華の館に小松氏が寄贈した「板かたる」が展示してあり、それを見学して来たことから平成20年4月山形市に訪問。それぞれの地で下の句歌留多で遊んだ様な記録がないだろうかという事、県立図書館を訪問調査する。いずれの地も2日間と短時日であったが痕跡すら見付からなかった。今のところ本州で下の句歌留多で遊んだ記録があるのは会津若松市だけである。

2. 江戸時代末期から明治にかけての会津若松と北海道の交流

- ① 1810年にロシア南下による海防策として利尻・礼文・稚内に派兵。10年ばかり居たが冬の寒さで病に斃れる者が多く遊ぶ暇は無かったと言われている。(郷土史研究家の説)

- ② 1859 年会津若松藩が、根室標津から紋別までのオホーツク沿岸の警備を任され武官 200 人、文官 176 人が派遣され戊辰戦争に敗退するまで生活していた。
冬の夜長に下の句かるたに興じていたのではと想像できる。
- ③ 戊辰戦争に敗れ降伏した人達が明治 2 年 9 月に小樽、翌年 3 月に 169 戸男女 126 人を余市郡黒川村、山田村を設け移住させ農業に従事。
(会津戦争後会津若松藩は、容大が家名相続し下北半島に斗南藩 3 万石として新藩が誕生)

3、屯田兵等の入植状況

- ① 道庁の移住者リストによると、士族が明治 4 年宮城より石狩郡当別村、札幌白石・上白石村、上手稲に入植している。
- ② 北海道へ屯田兵が初めて入植したのは明治 8 年宮城・青森等から札幌琴似村に。
さらに、明治 9 年に宮城・青森・福島等から札幌山鼻村に入植となっている。

4、移住者と下の句歌留多

- ① 下の句歌留多を遊ぶための必須条件
イ、字(漢字)が、読めること。
ロ、会津若松藩の出身であること。
- ② 移住者の多くは、必須条件を満たしていない
イ、明治 4 年に、士族の入植があったが、残念ながら宮城からである。
ロ、明治 8 年、明治 9 年に屯田兵が入植しているが、会津若松藩以外である。
ハ、屯田兵の構成が良くわからないが、下級武士の中で漢字を読める人が少なかったようであるから、字が読める人はあまり居なかったと考えられる。
ニ、屯田兵の多くは、町民や農民でほとんどの人は字を読めなかったと言われている。
- ③ 注目すべき談話
故山本 満氏は、オホーツク海沿岸の古老から、屯田兵が入植する前にかかるた遊びをしていた事を聞いたと言っている。

5、屯田兵が下の句歌留多で遊んでいたとの説に疑問

必須条件や故山本 満氏の言から、屯田兵が遊び始めたとの説には次のような理由から違うと考える。

- イ、出身地を見ると下の句歌留多で遊んだ地域の人ではない。
- ロ、屯田兵の多くは字を読めなかったと考えられる。

(会津若松市を訪問し郷土史研究家や、妙国寺の住職にお会いして、色々お聴きした結果、1800 年代に漢字を読める人は特定な人だけだった様である。上級武士と大店の主と番頭である。お会いした方々も一様にそのように言っていた。北海道に入植した人達の中に、漢字を読める人達がどれほど居たのか非常に興味がある。農民は殆ど読めなかったと思われる)

5、かるた遊びは、オホーツク沿岸から？

- ① 古老の話しが本当ならば、1859 年会津若松藩が派遣した人達が遊んでいたものが、今に伝わったと考えられる。
- ② であれば、屯田兵が入植する前から、かるた遊びがあった事もうなずける。
- ③ 明治 3 年 3 月に黒川村や山田村への入植者は、慣れない開墾に難渋し、2~3 年で離農した人達が多く 4 分の 1 ほどに激減したとの記録がある。
- ④ 現地に留まった人達が、かるたで遊べるほど心にゆとりができたのは、相当年数が経ってからではないかと想像する。
- ⑤ よって、かるた遊びはオホーツク海沿岸から広まったと考えることができるのだが ?